

精密合成化学セミナー（第2回）

コバルトを活用したフッ素含有有機化合物の創製

今野 勉 先生

（京都工芸繊維大学・大学院工芸科学研究科・教授）

触媒的クロスカップリング反応に代表されるように、有機合成化学において遷移金属を用いた反応は、典型金属のみを用いた反応に比べて、特異な反応を実現できたり、あるいはより効率的に反応が行えるなど、極めて優れた利点を持つため、これまで数多くの反応が報告されてきた。そうした遷移金属を用いた反応においては、これまで、パラジウムやロジウムなどの第二列遷移元素、あるいはイリジウムなどの第三列遷移元素といった、希少元素を用いるのが主流であったが、近年になってようやく、鉄やコバルトといった、自然界により豊富に存在し、より安価な第一列遷移元素を用いた反応開発が活発に行われるようになってきた。当研究室でも、近年特にその開発が目覚ましいコバルト化学に着目し、有機フッ素化合物の合成において、他の金属では実現できない、興味ある反応が開発できないかとの観点から、ここ数年、コバルト金属を用いた反応開発を精力的に展開している。本講演では、特に最近見出した反応についていくつか紹介する。

2018年11月2日(金) 15時より

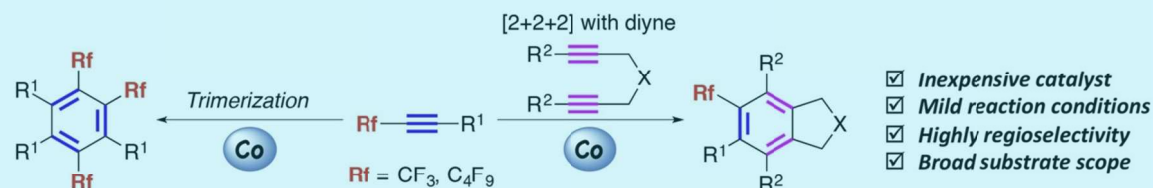
リンクスクエア2F 演習室2A

問合先 精密合成化学研究室 土肥寿文（内線 6181）

【共催】R-GIRO

「有機生命資源の有効利用による電子・光機能性材料の創製」

(1) Cobalt-catalyzed [2+2+2] cycloaddition



(2) Cobalt-catalyzed hydrosilylation

